

FinePix F100fd

Maniac

Makoto Ichikawa



Third Edition

目次

はじめに	・・・	3
1. FinePix F100fd が教えてくれた夜の撮影の楽しみ	・	4
(1) 夜景の撮影	・・・	4
(2) 星空の撮影	・・・	8
2. FinePix F100fd の理解	・・・	13
(1) 光学系	・・・	13
(2) 撮影モード	・・・	17
(3) 撮影サイズ	・・・	18
(4) FinePix カラー	・・・	21
(5) 感度設定	・・・	21
(6) ワイドダイナミックレンジ	・・・	25
(7) iフラッシュ	・・・	25
(8) 連写	・・・	26
(9) 測光方式	・・・	26
(10) ホワイトバランス	・・・	27
(11) AF モード	・・・	27
(12) 撮影した画像の再生	・・・	29
(13) FinePix S9000 との比較	・・・	30
3. 使いこなし	・・・	32
(1) 撮影メニューへのショートカット	・・・	32
(2) メモリカード	・・・	33
(3) 液晶保護フィルム	・・・	33

(4) カメラケース	・・・	33
(5) 滑り止め	・・・	34
(6) ブレ防止機能の誤操作防止	・・・	34
(7) 画素数の設定	・・・	35
(8) マナーモードについて	・・・	35
(9) AF について	・・・	35
(10) 手持ちで夜景撮影	・・・	36
(11) フラッシュの設定と縦位置でのフラッシュ使用上の注意		36
(12) 露出補正について	・・・	36
(13) バッテリーの撮影枚数	・・・	37
(14) 三脚	・・・	37
(15) フード	・・・	38
(16) レンズのクリーニングを忘れると	・・・	36
4. まとめ	・・・	40

■ FinePix F100fd (FUJIFILM) の主な仕様

はじめに

FinePix F100fd は FinePix 誕生 10 周年記念モデルとして 2008 年 1 月 14 日発表、3 月 15 日に発売されました。FinePix 700 を持っていたことはありますが 10 周年は「あ、そう」くらいで、広角域が 35mm 判換算 28mm に拡大、CCD シフト式の手ブレ補正機能の内蔵、従来比 400%のワイドダイナミックレンジには関心がありましたが、ナローシェイプデザインは好みでなく、入手には躊躇していました。

その後、CoolPix 4500 (Nikon) の最後の役割となっていたテレスコマイクロ 8x20D への対応が、アダプタ用ネジの付加(詳細は“[FinePix F31fd Maniac](#)”) で F31fd の役割となり、システムカメラの中核として手荒に扱えなくなったことから、F100fd の入手に至りました。

F100fd は F31fd と同じ 600 万画素の画像サイズの比較で精細感が高く、手ブレ補正機能と高感度での良好な画質で、暗い環境でも積極的に撮影しようという気持ちに著者を変えてくれました。また、FinePix F200EXR 入手後、F100fd と比較撮影しましたが、「EXR 化前の最後の 1/1.6 型スーパー CCD ハニカム HR を用いた本機の方が繊細感があるのでは？」とも感じさせられました。(第 3 版の 2011 年 10 月現在でも十分、通用する画質と思います。ただ、操作系がお世辞にも使い勝手がよいとはいえないのが、難点ですが・・・)

初版の”FinePix F100fd Maniac”、小冊子“FinePix F31fd Maniac”に続いてまとめましたが、F200EXR の第 4 版をまとめたのを機に全面改訂を行い、内容の充実を図りました。

【表紙の写真】

2009 年 7 月当時、FinePix F100fd と一緒に持ち歩いていた Advanced W-ZERO [es]、キーホルダー代わりのメジャー (3m)、LED ライト、USB メモリ。その他、B6 ノートと 4 色ボールペンを携行。

1. FinePix F100fd が教えてくれた夜の撮影の楽しみ

(1) 夜景の撮影

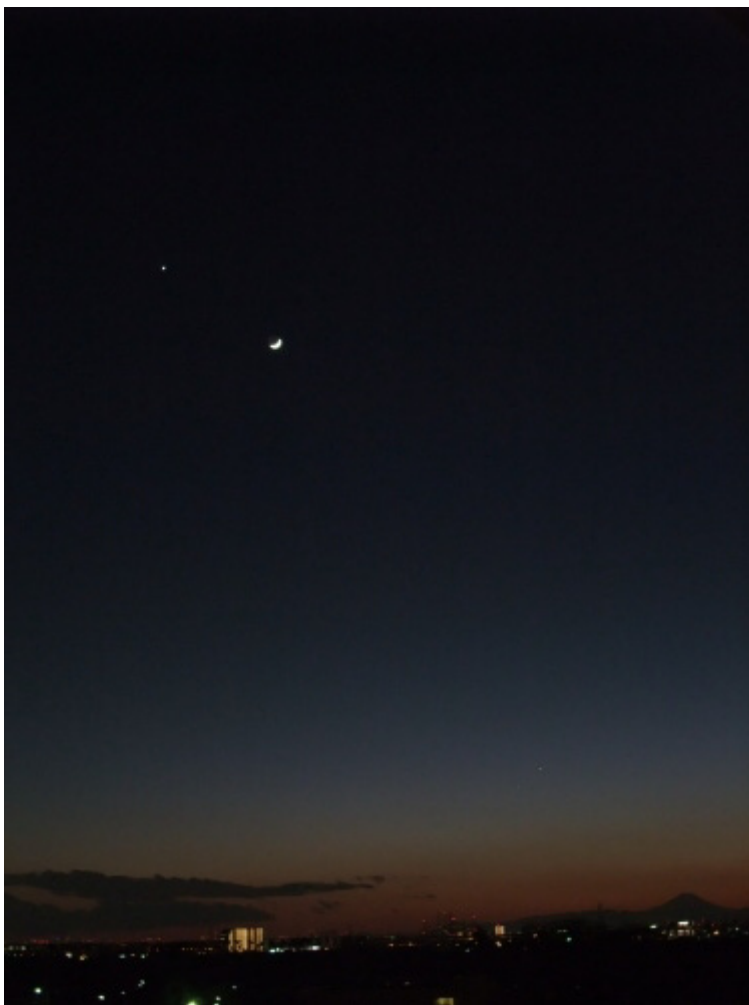
機能をいくら強調しても撮影して楽しくなければ、意味がありません。F100fd を使い始めて「夜景を写すのが楽しくなった」というのが著者の中で起きた顕著な変化です。

次のレインボーブリッジの作例は撮影モードは AUTO、感度設定は ISO 400(AUTO)で、お台場海浜公園側のポールに体を預けて手持ち撮影した何枚かの1枚を選んだものです。1/4sec のシャッター速度でも手持ち撮影が可能なのに驚かされ、また、ワイドダイナミックレンジのおかげで記憶に残る夜空の暗さのようなものが感じられました。



レインボーブリッジ

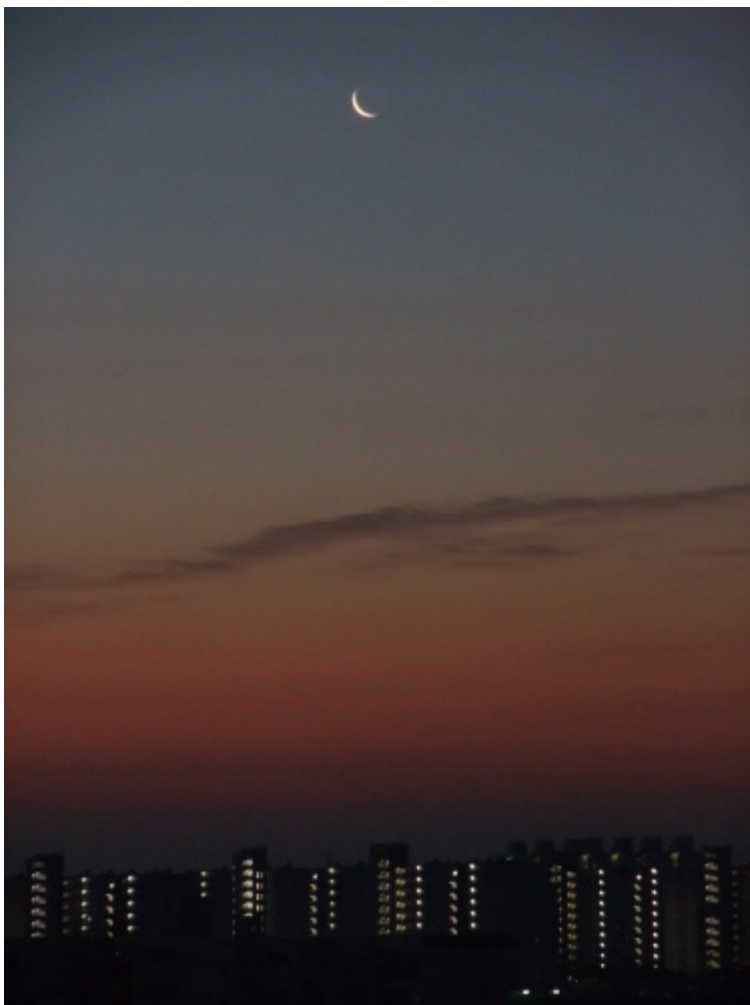
シャッタースピード 1/4 sec 、レンズ絞り値 F4.3
レンズの焦点距離 16.0 mm (35mm 判換算 70mm 相当)
ISO 感度 400 、露出制御モード Program normal



2008 年最後の富士山と月と金星

シャッタースピード 1/4 sec 、レンズ絞り値 F3.9
レンズの焦点距離 10.0 mm (35mm 判換算 44mm 相当)
ISO 感度 400 、露出制御モード Program normal

富士山と月と金星の作例はやはり撮影モードは AUTO、感度設定は ISO 400(AUTO)でバルコニーの手すりに肘をつけて手持ち撮影した何枚かの1枚です。



朝焼けの新松戸と月

シャッタースピード 1/4 sec 、レンズ絞り値 F5.1
レンズの焦点距離 32.0 mm (35mm 判換算 140mm 相当)
ISO 感度 400 、露出制御モード Program normal

やはり、バルコニーの手すりに肘をつけて手持ち撮影した何枚かの1枚です。望遠端でもこの程度に撮影できます。



帆船日本丸・横浜みなと博物館

日本丸も手持ち撮影しました。

(2) 星空の撮影

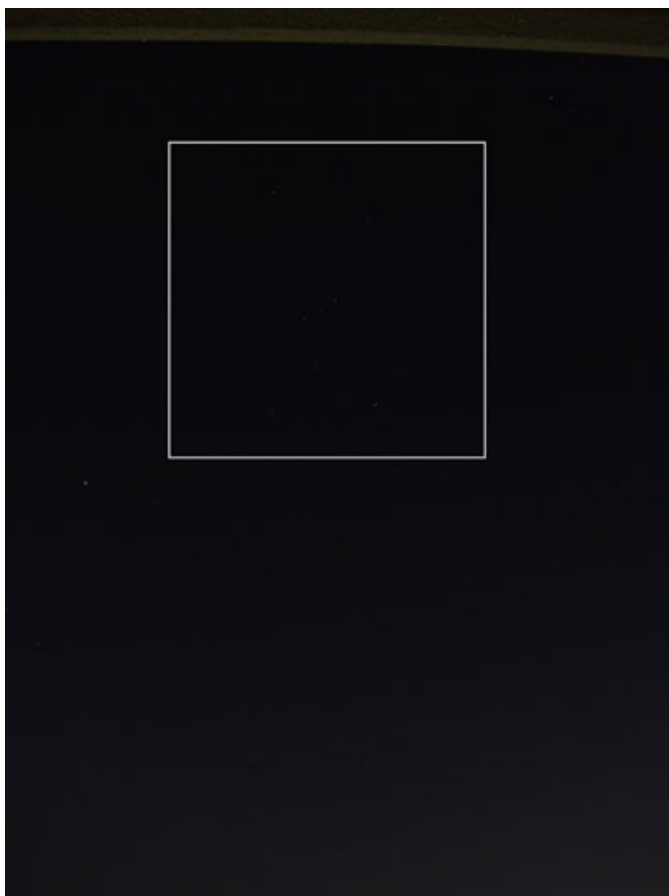
光害で星がよく見えない場所でも写真に写すと目で見えない星の姿が浮かんできます。撮影には星座早見表（著者は Advanced W-ZERO [es]（初版当時、現在は HYBRID W-ZERO3）に入れた Stella Theater Pocket で代用）、方位磁石、懐中電灯が必需品となります。

(1) で F100fd での夜空の撮影が気に入り、星空の撮影を始めました。

次に F100fd による撮影手順を紹介します。雲のない夜に是非、お試しください。

- 1) F100fd を三脚に取り付ける。（三脚は風などの影響を受けやすいことからしっかりしたものを選ぶ。レバーでワンタッチで固定できる自由雲台がおすすめ。）
- 2) 撮影メニューのセットアップを選択し、長時間露光を ON。
- 3) 撮影メニューのシーン選択で夜景を選択。
- 4) セルフタイマーを 10 秒（次の操作から）に設定。
- 5) 雲台を自由に動く状態とし、地上の遠い場所にレンズを向けてシャッターボタンを半押ししてフォーカスを合わせ、シャッターボタンを押し込んでセルフタイマーを作動。そしてセルフタイマーが作動している間に撮影したい星座の方向にレンズを向け、雲台を固定。その後、体がカメラや三脚などに触れて振動させないように注意し、シャッターが切れるのを待つ。
- 6) 4)～5) を繰り返して、星空をたくさん撮影。
- 7) PC のディスプレイで撮影した画像を表示し、うまく撮れているか確認。

次の写真は前述の手順で住処のバルコニーからオリオン座を撮影したものです。写真の上方に写っているのは上部階のバルコニーです。著者が写真に書き込んだ四角（1000画素角）の中にオリオン座があります。その部分を次に拡大しますが、F100fdの夜景モードが侮れないことが理解できます。



オリオン座の撮影

シャッタースピード 8.0 sec、レンズ絞り値 F3.2
レンズの焦点距離 6.4 mm、ISO 感度 100
露出制御モード Landscape mode



オリオン座

先の写真の枠の 1000x1000 画素の部分を 1/2 に縮小



オリオン座の中央の三つ星

オリオン座の中央の三つ星の部分を等倍としたもの。下方に M42、M43 の星雲が写っているのがわかります。



2009年9月5日の月

上の月は三脚に F100fd を載せてデジタルズームで撮影したものを 500×375 画素にリサイズしたものです。blog 用としては使えるレベルと思います。

2. FinePix F100fd の理解

(1) 光学系

FinePix F100fd のレンズはフジノン光学式 5 倍ズームレンズ（35mm 判換算約 28~140mm 相当/〈3:2〉約 29mm~約 145mm 相当）、F3.3 (W) ~F5.1 (T)、レンズ構成不明) です。F100fd を使い始めてすぐ TOYOTA STADIUM を撮影しましたが、F31fd に比して広角、望遠への拡大は建物撮影に便利なのを実感です。

FinePix F200EXR での実測ですが、F100fd も同じレンズを用いていることから、〈3:2〉の広角側は 35mm 判換算 27.8mm、〈4:3〉の広角側は同 26.7mm と少し広角側に強いようです。値が異なるのはカメラ映像機器工業会ガイドライン [CIPA DCG-002-2007「デジタルカメラの仕様に関するガイドライン」](#) の許容値と考えられます。

表 1 FinePix F100fd のズーム位置と 35mm 判換算の焦点距離

停止位置	焦点距離	35mm 換算	開放絞り値	最小絞り値
1	6.4	28	F3.3	F9
2	7.3	32	F3.4	F10
3	8.1	35	F3.5	F10
4	9.1	40	F3.6	F10
5	10.0	44	F3.8	F11
6	11.0	48	F3.9	F11
7	13.0	57	F4.0	F11
8	14.0	61	F4.1	F12
9	16.0	70	F4.3	F12
10	18.0	79	F4.4	F12
11	20.0	88	F4.5	F13
12	22.0	96	F4.6	F13
13	25.0	110	F4.7	F13
14	28.0	123	F4.9	F14
15	32.0	140	F5.1	F14



TOYOTA STADIUM



開閉式屋根の端部

■ 絞り値

F100fd の仕様の絞りの項目には「F3.3/F9（広角）、F5.1/F14（望遠）、ND フィルター併用」と記載されています。これは本機が F11 や F31fd のような絞り機構ではなく、ND フィルタ（ND8 相当と推定）の有無で 2 段階の絞りとなっていることによります。

F100fd の撮影モードに「絞り優先モード」と「シャッター速度優先モード」がないのは、2 段階の絞りでは従来のこれらの撮影モードのプログラムが利用できないためです。F100fd の撮影モードの M はシャッター速度や絞り値を設定できず、その確認もできないため、F200fd で確認した内容を表 1 に転記します。

■ 近接撮影能力

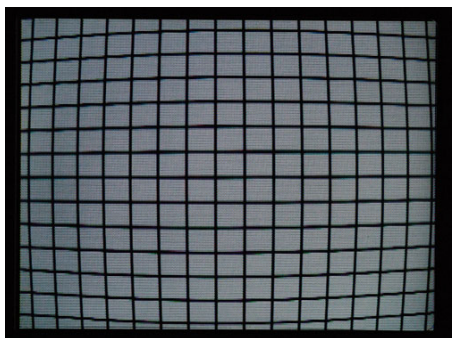
F100fd と同じレンズの F200fd でマクロ時（広角）の近接撮影能力を測定したところ、レンズ先端より 32mm の位置で合焦しました。レンズ先端より 5cm とする仕様より、近接撮影能力は高いようです。

■ 歪曲収差

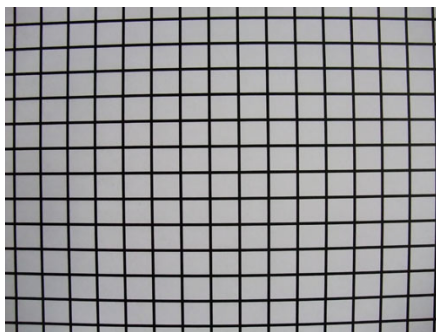
FinePix F100fd の広角端での撮影で液晶モニターの表示はレンズの歪曲収差を感じるのに、撮影した画像はそれをあまり感じさせません。そこで実際に撮影時の液晶モニターの画像と撮影後の画像を比較してみました。これにより、FinePix F100fd は若干の歪曲収差を残しながらうまく歪曲収差補正の画像処理をしていることが確認できました。

FinePix S9000 と FinePix F100fd の広角端は 35mm 判換算で同じ 28mm です。そこで両者のワイド端での歪曲収差を、升目（間隔 20mm）をレンズ先端からの距離約 150mm で撮影して比較しました。簡略な撮影セッティングのため、平行度が若干、悪いですが、画面の上下端のラインで歪曲の高さに対するラインの長さの比を求めると F100fd の歪曲収差は S9000 と同等なのが確認できました。S9000

は既に実機が手元にないため、あくまで推測ですが、S9000は光学系だけでこの歪曲収差を実現していると考えられます。

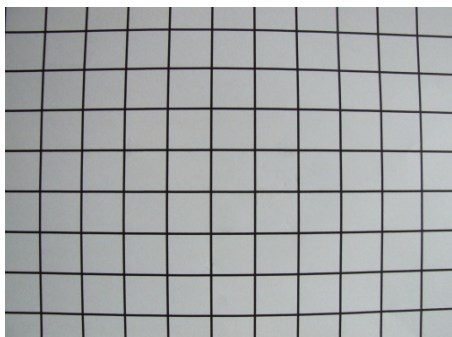


撮影前の液晶で見る画像

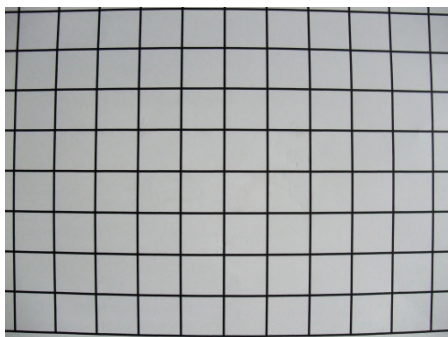


撮影後の画像

FinePix F100fd の歪曲収差の補正



FinePix S9000



FinePix F100fd

ワイド端での歪曲収差の比較

■ 手ブレ補正機能


F100fdの手ブレ補正機能はCCDシフト式で、体がぶれないように肩やひじを構造物に預け、状況に応じてさらにブレ低減のためのタイマー併用により、何枚か撮影すると1/4secでも納得できる絵が撮れます。

「1/[レンズの焦点距離]より遅いシャッター速度となった場合は三脚を使用」という教えが過去のものになりました。

(2) 撮影モード

F100fd の撮影モードとして表2のものがあります。他のカメラのマニュアル撮影モード M に親しんでいるため、当初、F100fd の撮影モード M に戸惑いましたが、他のカメラの M とは別物で、ホイールダイヤルで M を選択する際に表示される「露出補正や WB などを設定できるオートモードです」を素直に理解すればよいことに気づきました。

表2 FinePix F100fd の撮影モード

撮影モード	概要
 AUTO :	F モード以外はカメラにまかせて撮影。F-クロームの設定可。 露出補正は不可。
M :	露出補正 (±2EV、但し、 フラッシュ発光の場合は無効)、測光 (マルチ、スポット、アベレージ)、ホワイトバランス (AUTO、カスタム、晴れ、日陰、蛍光灯1、蛍光灯2、蛍光灯3、電球)、AF モード、ワイドダイナミックレンジの設定可。F-クロームの設定可。
高感度 2 枚撮り :	フラッシュ非発光/発光で連続2枚撮影。F-クロームの設定可。
ナチュラルフォト :	暗い場面で自然な雰囲気フラッシュ非発光で高感度で撮影。F-クロームの設定可。
SP ISO 設定は AUTOのみ	人物：肌の色が自然でソフトな印象
	美肌：肌を滑らかに撮影し、ソフトな印象
	風景：昼間の建物や山のなどの風景をくっきり仕上げる
	スポーツ：動いている被写体向きでシャッタースピードは高速になり、 パフォーマンスが AF スピードアップになる
	夜景：自動で高感度になって手ブレ軽減し、夕景や夜景の撮影向き
	夜景 (長時間露光)：スローシャッターによる夜景の撮影。三脚を使用。(撮影メニューの 長時間露光を ON にする)
	花火：スローシャッターで花火を鮮やかに撮影。三脚の使用
	夕焼け：夕焼けを赤く鮮やかに撮影
	スノー：輝く雪景色を画像が暗くならないように撮影
	ビーチ：日差しの強い浜辺で画像が暗くならないように撮影
	水中：防水プロテクタを装着して水中撮影時に設定
	美術館：フラッシュ光、シャッター音禁止の場所での撮影
	パーティー：室内のパーティー等の薄暗い雰囲気を活かす撮影
	花の接写：花びらの色を鮮やかに撮影。ピントはマクロ設定になる。
	文字の撮影：書類やホワイトボードの文字撮影。マクロ設定になる。
動画：	音声付き Motion-JPEG 形式の動画を撮影

(3) 撮影サイズ

F100fd の撮影サイズを設定するにあたり、近くのお寺の本堂を対象に 12M (4000×3000) と 6M (2848×2136) で比較撮影してみました。屋根の部分で 512×384 画素でトリミングしたものを次に示しますが、12M では空と屋根の境界線のあたりがもやもやとした感じで屋根の面的な部分では画素の粗さが感じられるのに対して、6M では輪郭線がはっきりした感じとなり、面的な部分も画素の粗さが軽減され、画質として余裕が感じられます。また、F31fd の 6M (2848×2136) と F100fd の 6M の比較では後者の精細感が高く、画像に余裕が感じられます (当然といえば当然ですが)。

A4 のプリント (表 3) に対応でき、PC ディスプレイで等倍で見ても気持ちのよい画像であることから、常用は 6M としています。



FinePix F100fd の画素数を決める試験の対象としたお寺



12Mで撮影を512×384でトリミング



6Mで撮影を512×384でトリミング

表 4 の画面サイズで 6M 以上を使うには、感度設定が ISO 3200 以下、また、3M 以下では ISO 6400、12800 が設定可能となります。

なお、画像サイズの 12M と 3:2 で横方向の画素数が異なりますが、横方向の写る範囲は同じことを実験で確認しました。後者は 1200 万画素と表示するため、画像処理で生成された画素数と考えられます。

表 3 ピクセル設定とプリントサイズ

ピクセル	プリントサイズ	寸法 (mm)
4000×3000 (1200 万画素)	A3	297×420
	四切 W	254×365
	四切	254×305
2848×2136 (600 万画素)	A4	210×297
	六切	203×254
2048×1536 (300 万画素)	A5	148×210
	2L	127×178
	DSCW	127×169
	HV	89×158
1600×1200 (200 万画素)	A6	105×148
	ハガキ	102×152
	L	89×127
	DSC	89×119

・ FinePix F100fd の使用説明書から編集

表 4 FinePix F100fd の画面サイズと画素数

Size	ピクセル
12M	4000 × 3000
3:2	4224 × 2816
6M	2848 × 2136
3M	2048 × 1536
2M	1600 × 1200
0.3M	640 × 480

■ 画質モード

撮影サイズとともに画質に関係するものとして画質モードの FINE と NORMAL の設定があります。FUJIFILM の Q&A に「FINE と NORMAL の違いを教えてください」という設問に対する回答として「(略)目に見えるほどの差はありません。通常であれば NORMAL で十分ですが、より良い画質を求める場合には FINE をおすすめします。」と記載されていることもあり、著者は NORMAL の設定にしています。

(4) FinePix カラー

F100fd は『FinePix カラー』で色調変更が可能で、「F-スタンダード」(標準)、「F-クローム」(コントラストや色を深めにし、風景や花などの撮影向き)、「F-B&W」(黒白)から選べます。F-クロームが設定できるのは、AUTO、M、高感度 2 枚撮り、ナチュラルフォトとなります。F-クロームはダイナミックレンジが AUTO のみ選択できます。

(5) 感度設定

F100fd は ISO 100~12800 の個別の感度設定、AUTO、最高感度を制限する AUTO (400~3200) の 13 種類の設定があります。撮影モードが AUTO では AUTO (400~3200)、M では AUTO を除く感度設定、SP では AUTO のみの感度設定となります。

■ 感度と撮影結果

600万画素に設定した F100fd を三脚に取り付けて、手元にあった携帯ストラップ（長さ 47mm）を対象に ISO 100~6400 の範囲で室内撮影しました。各感度における 500×375 画素でトリミングした画像を以下に示します。ISO 800 が常用できるレベルであることが理解できます。

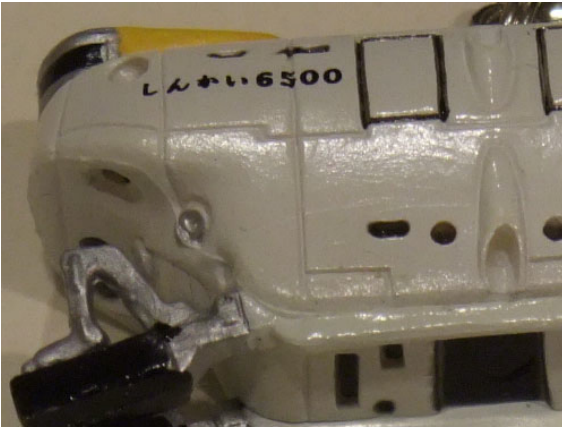


しんかい 6500 の携帯ストラップ

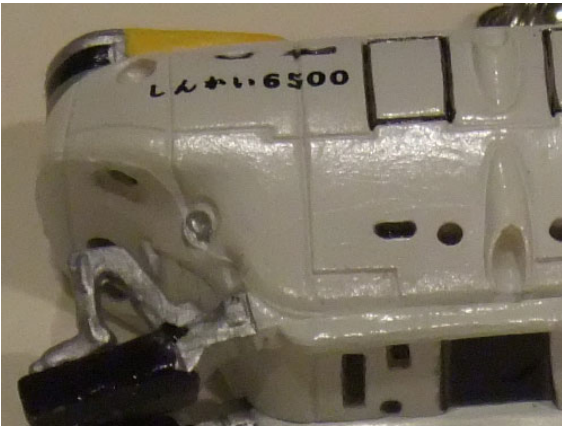
【F100fd の感度と撮影結果】



ISO 100



ISO 200



ISO 400



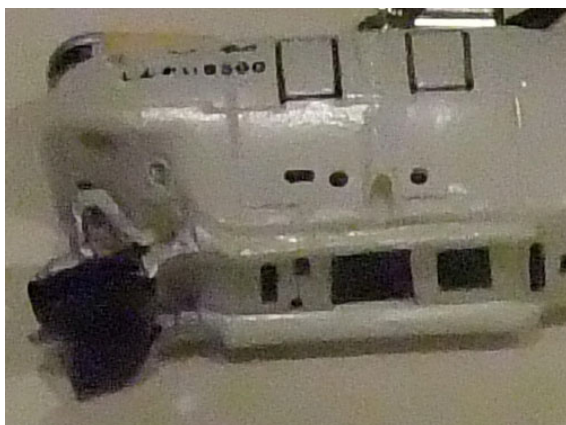
ISO800



ISO 1600



ISO 3200



ISO6400

画像サイズは
3M

(6) ワイドダイナミックレンジ

富士フィルムのデジタルカメラのフラグシップモデルの FinePix S5 Pro の撮像素子「スーパーCCD ハニカム SR Pro」は、受光面積を相対的に広くすることで感度を高めた S 画素と受光面積を狭くすることで感度を低くした R 画素を撮像面に配置し、これらの信号を組み合わせることで画像処理を行うことでダイナミックレンジの拡大を図ったものです。

F100fdのスーパーCCD ハニカム HR VIIIを用いたダイナミックレンジの拡大は、白トビしないように暗く撮影し、カメラ内部の画像処理でシャドー側を持ち上げながら全体が適正な露出となるようにしたものです。このため、ISO 400(AUTO)がダイナミックレンジ 400%、ISO 200(AUTO)がダイナミックレンジ 200%に対応というように、撮影感度でダイナミックレンジが制約されます。

撮影感度を高くして撮影するとノイズが目立つものですが、ノイズリダクション技術でこれが低減されています。FinePix S9000 の ISO 400 は画像サイズ 5M でもノイズ感が強く、非常用以外は使いたくないですが、F100fd は 6M の設定で ISO 400 が常用できます。F31fd の ISO 400 での画像と比べても高画素化の悪影響は感じられません。画像サイズ 12M での ISO 400 はノイズ感が目立つため、ワイドダイナミックレンジを使用する場合は画像サイズ 6M の設定がお勧めです。

なお、F100fd の使用説明書の P.61 に記載のようにワイドダイナミックレンジを設定できるのは撮影モードが M となります。

(7) iフラッシュ

iフラッシュは FinePix F30 に初めて搭載された機能で F100fd にも搭載されています。F31fd を入手時、F11 と約 40cm の距離にある本棚を比較撮影し、iフラッシュの画像の本の背表紙が白飛びしないことで機能を理解しました。



FinePix F11 のフラッシュ



FinePix F31fd のiフラッシュ

(8) 連写

F100fd には表 5 に示す 5 種類の連写があります。

撮影モードが EXR では高速連写、高速サイクル連写は設定できません。また、セルフタイマーで撮影する場合、サイクル連写、高速サイクル連写、エンドレス連写は 1 コマしか撮影できません。

表 5 連写の種類

連写の種類	概要
連写	約 1.7 コマ/秒で、連続 3 コマまで
連写 (高速)	最短約 5 コマ/秒連続 12 コマまで (最大記録画素数「S」) ダイナミックレンジは AUTO のみ
サイクル連写	最短約 1.7 コマ/秒で、シャッターを離した直前の 3 コマまで
サイクル連写 (高速)	シャッターボタンを押している間、最大 40 回シャッターが切れ、シャッターボタンを離した直前の 12 コマ (最大記録画素数「S」) ダイナミックレンジは AUTO のみ
エンドレス連写	内蔵メモリーまたは記録メディア容量までの連続撮影

(9) 測光方式

F100fd は撮影モードが M において表 6 の測光方式の設定が可能です。

表 6 測光方式

測光モード	概要
マルチ	シーン自動認識で様々な撮影状況に対して適正な露出が得られる
スポット	画面中央部の露出を最適にする
アベレージ	画面全体を平均して測光。白や黒の服を着た人や風景の撮影に適する。

■ 露出補正

F100fdは撮影モードがMにおいて±2EVの範囲で露出補正できます。なお、フラッシュ撮影時は露出補正できません。使用説明書で書かれた逆光の人物撮影では $+2/3 \sim 12/3$ EV、スキー場などの反射が強く明るい場合や画面の大部分を空が占める場合は+1EV、暗い背景でスポットライトを浴びた場合や常緑樹や色の濃い葉などの反射率が低い場合は $-2/3$ EVを覚えておくとよいです。

(10) ホワイトバランス

F100fdは撮影モードがMにおいてホワイトバランスの設定が可能です。

(11) AFモード

FinePix F100fdのAF方式はTTLコントラストAFです。撮影モードがMで、かつ、顔キレナビがOFFの時、AFモードの設定が可能です。表7にAFモードをまとめます。マクロ撮影時はセンター固定になります。顔キレナビがONの場合、コンティニューアスとなり、消費電力が増えます。

F300EXRの使用説明書の「オートフォーカスの苦手な被写体について」でF200EXRに対して下線の3項目が追加されています。これはF100fd、F200EXRにも共通するもので問合せが多いことから追加されたものと想定されます。F100fdについてもこの「オートフォーカスの苦手な被写体について」の内容は有用です。

表7 AFモード

AFモード	概要
センター固定	画面中央にある被写体にピントを合わせる。マクロ撮影ではピントが中央付近に固定される。
オートエリア	液晶中央付近にあるコントラストの高い被写体を自動認識してその被写体にピントをあわせる。
コンティニユアス	動きのある被写体に対するもので、+マーク付近の動いている被写体にピントを合わせ続ける（シャッターボタンを押し続けていなくても常にピントを合わせ続ける）。

オートフォーカスの苦手な被写体について

- ・鏡や車のボディなど光沢のあるもの
- ・高速で移動する被写体

その他のオートフォーカスの苦手な被写体：

- ・ガラス越しの被写体
- ・髪の毛や毛皮などの暗い色で、光を反射せずに吸収するもの
- ・煙や炎などの実体のないもの
- ・被写体が暗いとき
- ・背景との明暗差が少ないもの（背景と同色の服を着ている人物など）
- ・AF フレーム内にコントラスト差が大きいものがあり、その前か後ろに被写体がある場合（・コントラストの強い背景の前の被写体など）
- ・フォーカスエリア内に遠いものと近いものが混在する被写体（オりの中の動物や木の前の人物など）
- ・連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓など）
- ・絵柄がこまかな場合（一面の花畑など、被写体が小さいか、明暗の差が少ない被写体など）

■ 顔キレイナビとセルフタイマー撮影の組み合わせ

F100fd の顔キレイナビは逆さ顔の認識機能が追加されました。

顔キレイナビに設定してセルフタイマー撮影すると自動的に人物の顔を検出してピントをあわせ、事前にピントを合わせる必要がなく、撮

影者を含めた集合写真やセルフポートレートの撮影に便利です。

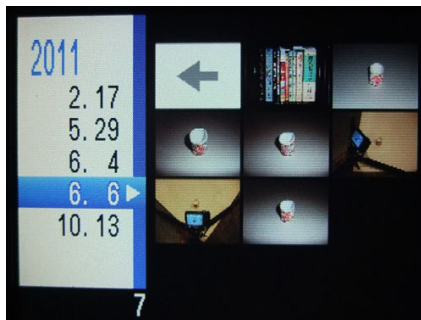
■ 顔キレイナビと補正前の画像の保存

MENU 中のセットアップの「補正前画像記録」を ON（標準設定は OFF）にすることで、顔キレイナビ補正 ON での撮影時に、赤目補正前の画像も同時に記録することができます。

(12) 撮影した画像の再生

F100fd の液晶モニターは 2.7 型、表示画素数は同じ約 23 万画素です。再生ボタンを押して、DISP/BACK ボタンを押すことで再生表示が切り換ります（下は日付別再生の表示例）。F100fd が電源 OFF の状態で、再生ボタンを長押しすると再生モードで電源 ON になります。

F31fd の再生は 2 コマ / 秒程で待たされ感があったのが、600 万画素が常用ということもありますが F100fd では待たされ感はなく、ホイールダイヤルを回転すると撮影画像がすばやく再生されます。



FinePix F100fd の日付別再生

■ F100fd の弱点

F100fd は被写体に光源が入った時、液晶モニターのスミアの発生が盛大に見られる時があります（次の写真は太陽を受けて輝く瓦のお寺を

撮影しようとした時に発生したスミアの例)。スミアの発生は絞れば改善されますが、本機はその構造上、絞れないことがスミアの発生を生じていると考えられます。スミアが発生しても撮影画像に影響はないことから、「こういう特性をもったカメラだ」と理解して使うことが必要なようです。



液晶モニターのスミアの発生状況

(13) FinePix S9000 との比較

手持ちのS9000 とF100fd は同じ1/1.6型のCCDサイズを使っています。前者のスーパーCCDハニカムHR VはVIIIに、画像処理エンジン「リアルフォトテクノロジー」は無印からIIIに世代アップし、画素数は900万画素から1200万画素となっています。

S9000 は ISO400 から画質の劣化が目立ち始めることから常用はISO200までとしていたのですが、F100fd はISO400で暗部の画質の低下はわかりますが、ノイズ感はよく抑えられていてISO 400が常用できます。高画素化にも関わらず、F100fd は高感度撮影を含めてS9000に比較して画質が格段によくなったといえます。

ワイド端の歪曲収差はFUJIFILMの光学系の設計基準が適用されていると思いますが、先の比較のように両者、ほとんど差はありません。

S9000 が F100fd より勝っているのは、可動液晶モニター、望遠（140～300mm の範囲）、コンバージョンレンズへの対応、外部ストロボ、そしてケーブルリリースへの対応となります。

F100fd は F31fd の後を継ぐメモカメラと考えていたのですが、著者の撮影対象は 35mm 判 28～140mm 相当のレンズでほとんど間に合い、画質面も優れていることから S9000 はテレコンバージョンレンズと組み合わせたの 35mm 判 510mm の望遠撮影を行う時に稼働するくらいになってしまいました。



FinePix S9000 と FinePix F100fd

[参考]

人物の肌もより滑らか、青空もくっきり！豊かな階調表現を実現する従来比 4 倍のダイナミックレンジ デジタルカメラ「FinePix F100fd」新発売（2008 年 1 月 14 日）（FUJIFILM ニュースリリース）

<http://www.fujifilm.co.jp/corporate/news/article/ffnr0178.html>

FinePix S5 Pro

<http://fujifilm.jp/personal/digitalcamera/finepixs5pro/index.html>

3. 使いこなし



FinePix F100fd と Digital Camera Bag #2520 (f.64)

FinePix F100fd の設定、著者は次を標準としています。

画像サイズ：**6M (2848×2136)** ; 画質から
画質モード：N (初期設定のまま)
ISO 感度：**AUTO(400)** ; 場合により AUTO(800)、AUTO(1600)
ダイナミックレンジ：AUTO (初期設定のまま)
撮影モード：**M** ; MENU/OK ボタンの長押しで撮影メニュー使用
撮影画像表示：拡大 ; 撮影した画像の素早いチェックのため
AF 補助光：OFF ; 節電のため (マナーモードも積極的に併用)

(1) 撮影メニューへのショートカット

撮影メニューは「MENU/OK ボタンを押し、ホイールダイヤルで選択し・・・」で使い勝手が悪いのですが、田中希美男氏の Web サイト「[Photo of the Day 露出補正操作のショートカットがありました](#)」で **MENU/OK ボタンを長押しで撮影メニュー表示**を知りました。

「露出補正」、「測光」、「ホワイトバランス」、「連写」、「AFモード」、「セットアップ」にすぐアクセスでき、操作性が改善されます。撮影モード AUTO では「連写」しか設定できませんので、**撮影モード M の常用**をお薦めします。

(2) メモリーカード

富士フィルムの「[FinePix シリーズ : FinePix F100fd \(対応情報\)](#)」でSDメモリーカードの対応が公開されています。

(3) 液晶保護フィルム

F31fdの液晶モニターの表面はFUJIFILM製「CVフィルム」の使用で反射が抑えられ、明るい屋外でも見やすいのですが、F100fdの液晶モニターは反射の大きいものです。そこでモニター面の保護も兼ねて、マット仕様の液晶保護フィルム（DGP-007(ELECOM)）を入手し、貼り付けました。反射が低減され、使いやすくなりました。

(4) カメラケース



Digital Camera Bag #2520 (f.64)



純正ケース SC-D10GR

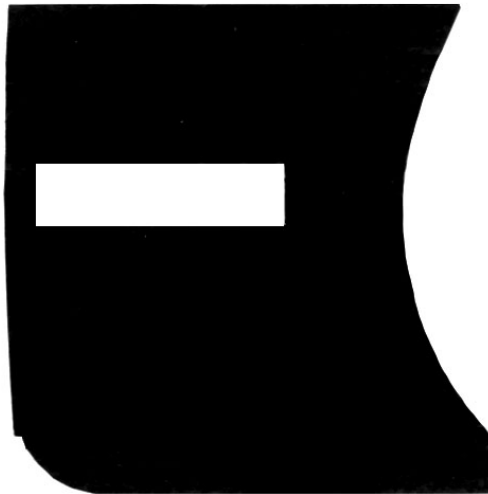
カメラケースには Digital Camera Bag #2520 (f.64) を F31fd から流用しています。背面のベルト止め用のベルクロが縦用と横用と2つ

備わり、ジーンズのベルトループも利用できることから重宝します。

皮製の純正ケースのSC-D10GR(バーゲンで入手)も持っています。

(5) 滑り止め

F100fdのグリップ部はF31fdのような指かかりとなる部分がなく、滑りやすいものです。そこで手持ちの滑り止めのシートDF-2400CH(TOYO INK)をカットして貼りつけました。デザイン的にはベルビアン
のブラックモロッコ(K-201)の方が革風でよいですが、滑り止めの効果を優先させました。それが前ページの写真のF100fdの左側に貼られたものです。次ページに滑り止めの型紙を示しますが、高さ40mmで縮尺して作成するとちょうどF100fdにあうと思います。



FinePix F100fd用の滑り止め

(6) ブレ防止機能の誤操作防止

F100fdのブレ防止機能のON-OFFスイッチは、ホイールダイヤルの上側に割り付けられているため、カメラを保持した時、親指で誤って

押してブレ防止機能を OFF してしまうことがしばしばありました。ブレ防止機能は頻繁に ON-OFF 操作するものではありませんので、MENU の奥に入れる設計をしていてくれればこのようなことはなかったのですが、仕方ありません。誤操作防止に親指のかかる位置に 1mm 厚のスポンジシートを貼り、手探りで親指の位置が決まり、スポンジ厚でボタンを押さないように対策しました。(写真)



ブレ防止機能の誤操作防止用のスポンジシート

(7) 画素数の設定

日常使用は 600 万画素で十分のため、6M(N)を常用しています。

(8) マナーモードについて

シャッター音、AF 補助光やフラッシュ光などを避けたい場合、DISP/BACK ボタンの長押しでマナーモードに設定できます。著者は操作音量とシャッター音量を OFF とした設定を常用とし、これにマナーモードを組み合わせています。

(9) AF について

AF が苦手とする撮影対象の時、使用説明書のように AF ロックの手

法がありますが、壁の縦のラインにフォーカスを合わせようとするフォーカスが合わない場合、カメラを傾けてシャッターを半押しすると AF があうことがあるため、その方法で合焦したらシャッターを半押しのまま、もとの方向にもどして撮影をしています。

(10) 手持ちで夜景撮影

FinePix F100fd を使い始め、CCD シフト式の手ブレ補正機能の効果で夜景を気軽に撮影するようになりました。体がぶれないように肩やひじを構造物に預け、状況に応じてシャッターを切る時のブレ低減のためにタイマーを併用することで、何枚か撮影すると 1/4sec のシャッター速度でも著者の満足できるレベルの絵が撮れています。

(11) フラッシュの設定と縦位置でのフラッシュ使用上の注意

強制発光フラッシュ ON の設定であると、電源 ON 後、フラッシュのチャージのため、インジケータランプが点滅して数秒、待たされます。そこで F100fd を ON したらすぐ使えるように、電源 OFF する時、フラッシュ発光禁止となっていることを確認しています。

F100fd で片手撮影する場合、フラッシュの位置がシャッターボタンに近いので、意識しないと指がフラッシュにかかってしまいます。そこで「縦使いで撮影する時は注意、そして撮影画像を見て指で影になっていないことを確認」としています。

(12) 露出補正について

F100fd は ISO 400 が常用できる画質レベルにあるため、著者は ISO 400(AUTO)を常用としています。(1)で述べたように MENU/OK ボタンの長押しで露出補正にアクセスできることから撮影モード M の設定をお勧めします。(AUTO では露出補正できません。)

±2EV の範囲で露出補正できます。使用説明書で書かれた逆光の人

物撮影では $+2/3 \sim 1^2/3$ EV、スキー場などの反射が強く明るい場合や画面の大部分を空が占める場合は+1EV、暗い背景でスポットライトを浴びた場合や常緑樹や色の濃い葉などの反射率が低い場合は $-2/3$ EV を覚えておくとよいです。

(13) バッテリーの撮影枚数

使用開始時のフル充電から自動的に電源断されるまでの撮影枚数は公称 230 枚を超える 254 枚となり、バッテリーの残量不足の表示から 10 枚ほど撮影できました。F11、F31fd を思うと物足りませんが、S9000 とエネルギーの組み合わせで $200 + \alpha$ 枚の撮影枚数ですので、F11、F31fd の撮影可能枚数がすごすぎるといえます。

F100fd のマナーモードは消費電力の低減となることから積極利用をお薦めします。

(14) 三脚



Sprint Pro (SLIK) を改造した三脚



DCA-016BK (ロアス)
147x40x18[mm], 73[g]

星空の撮影には F100fd の露出時間が十分でないと思う人もいますが、1 章で紹介したようにそこそこ撮影できます。星の撮影で不可欠なのが三脚で、著者は軽合金製で剛性の高い Sprint Pro (SLIK)、重さ約 0.9kg、最大高さ約 163cm、センターポールを外してローアン

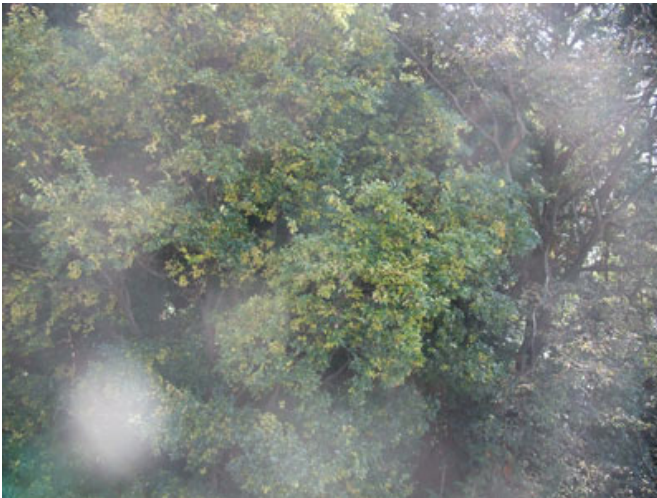
グル撮影にも対応)を使い、自由雲台の固定力を高めるために標準のSBH100からひとまわりボール径の大きいSBH120に交換し、冬対策にスポンジカバーを脚に貼り付けています。

シャッターを押す際のぶれが懸念される撮影条件ではタイマーを使う配慮が必要ですが、写真のミニ三脚などは携行に便利です。

(15) フード

HOYA マルチレンズフード(ケンコー) 52mmを、ステップアップリング 49→52mmを改造してF100fdに取り付けることで装着できます。これにより逆光時のハレーション低減を図ることができます。詳細は同形機の『[FinePix F200EXR Maniac](#)』を参照してください。

(16) レンズのクリーニングを忘れると・・・



レンズの埃の付着を気付かせた画像

FinePix F100fdの撮影枚数が10,000枚を越え、カウンターが1枚にリセットされました。「最近、太陽が前方にあると撮影画像が白っ

ぼくなるなあ」と気になっていたのですが、紅葉を撮影にあって斜め前方に太陽がある条件で液晶モニターを見ると上の状態です。「ひょっとして・・・」とレンズを見るとしっかりと埃が付着していました。帰ってすぐブローアとレンズ用ブラシで埃を除去し、鮮明な画像に復旧しました。「オートフォーカスが外れるなあ」というのもこれが原因でした。

撮像素子が小さいことからレンズについた埃の影響を受けやすいことに改めて気付かされました。

4. まとめ

FinePix F100fd は著者に夜景撮影の面白さを教えてくれました。また、同じ 35mm 判換算 28mm から始まる S9000 とワイド端での歪曲収差が同等で、手ブレ補正機能と相まって高感度での画質も格段に向上したことから、S9000 を持ち歩くことはなくなってしまいました。

F100fd は AUTO 撮影を中心とした製品で、撮影モード M も本格的なマニュアル撮影モードを提供するものではなく、AUTO に露出補正などの若干の調整代を加えたものです。しかし、この M モードの使いこなしが F100fd の使いこなしに通じるといえます。

F200EXR を入手した時、F100fd と比較撮影しましたが、「解像感などは F100fd の方が優れているのでは」とさえ、思いました。FUJIFILM の EXR はダイナミックレンジの拡大の面では確かに有効と思いますが、F100fd の画質、1/1.6 型 CCD を使っていることもあり、今日でも十分、通用するものです。著者も所有している FinePix F31fd についてその後の F シリーズより画質的に優れているというような過大評価の書き込みを Web 上で目にすることがあります。しかし、F100fd を 6M で撮影した画像はそれより繊細感があり、手ブレ軽減機能の効果から暗所でも撮影しやすくなっています。

なお、FinePix F30、F31fd、F100fd と「女性をターゲットに」という製品戦略がデザインから読み取れますが、F100fd のデザインはそれが過度に過ぎ、従来のカメラ好きにそっぽを向いた突飛なものとなり、例えばホイールダイヤルを使った独特のヒューマンインターフェースは F200EXR では従来のものに戻されることになりました。F100fd に「撮影する道具として長く使いたい」と思える人間工学に配慮されたデザイン（操作系を含む）が与えられていたら、FinePix F シリーズの展開も異なったものとなったと考えられます。

撮影例



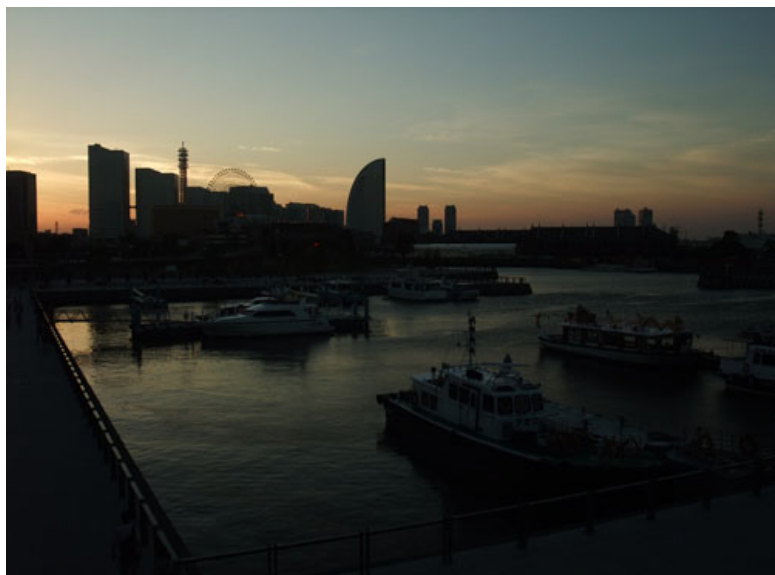
中禅寺湖 茶の木平の紅葉



富士川SAから見た富士山



谷津干潟のキアシシギ（望遠端で撮影し、トリミング）



MM21（夕日モードで撮影）

■ FinePix F100fd に関連する Web サイト紹介

人物の肌もより滑らか、青空もくっきり！豊かな階調表現を実現する従来比 4 倍のダイナミックレンジ デジタルカメラ「FinePix F100fd」 新発売（2008 年 1 月 14 日）（FUJIFILM ニュースリリース）

<http://www.fujifilm.co.jp/corporate/news/article/ffnr0178.html>

FinePix F100fd のファームウェア（カメラを制御するソフト）の更新（Ver.1.02）
<http://fujifilm.jp/support/digitalcamera/download/finepix/f100fdfirmware/download001.html>

- ・ ISO 400 および高感度 2 枚撮りのノンフラッシュ撮影時にまれに生じる画像左端の紫色のムラの発生を低減

【新製品レビュー】富士フィルム「FinePix F100fd」（デジカメ Watch）

<http://dc.watch.impress.co.jp/cda/review/2008/04/30/8351.html>

【レビュー】富士フィルム FinePix F100fd 実写インプレッション (1) FinePix F シリーズのフラッグシップモデル 家電 マイコミジャーナル

<http://journal.mycom.co.jp/articles/2008/04/30/f100fd/index.html>

レビュー：ノイズ知らずの多機能コンパクト——富士フィルム「FinePix F100fd」（1-6） - ITmedia +D LifeStyle

<http://plusd.itmedia.co.jp/lifestyle/articles/0805/14/news007.html>

富士「FinePix F100fd」、従来比 4 倍のダイナミックレンジの実力を評価！ - デジタル - 日経トレンドネット

<http://trendy.nikkeibp.co.jp/article/pickup/20080331/1008691/>

「FinePix F100fd」手ブレ補正が強力な FUJIFILM のコンデジフラッグシップ・実写レビューその1 まわりぶろぐ

http://mawari.cocolog-nifty.com/mawariblog/2008/07/finepix100fd_f_9589.html

水中撮影テクニック 富士フィルム FinePix F100fd

<http://inonphoto.blog64.fc2.com/blog-entry-6.html>

FUJIFILM FinePix F100fd のズームエラー修理 | めざせ！ジャンク王・・・ってか

<http://ameblo.jp/akame9/entry-10988290758.html>

Fujifilm launches F100fd 'ultimate' compact Digital Photography Review

<http://www.dpreview.com/news/0801/08012407fujif100fd.asp>

Fujifilm FinePix F100fd Review (Digital Camera Review)

<http://www.digitalcamerareview.com/default.asp?newsID=3440&review=fuji+f100>

■ FinePix F100fd (FUJIFILM)の主な仕様

型番	FinePix F100fd
有効画素数	1200万画素
撮像素子	1/1.6型 スーパー-CCD ハニカムⅧ HR 原色フィルター採用
画像処理エンジン	リアルフォトエンジンⅢ
記録画素数	4000×3000/4224×2816<3:2>/2848×2136/ 2048×1536/1600×1200/640×480 (ピクセル)
レンズ	フジノン光学式 5倍ズームレンズ 焦点距離 f=6.4mm~32mm 35mm フィルム換算：28mm~140mm 相当 開放F値 F3.3~F5.1
絞り	F3.3/F9 (広角)、F5.1/F14 (望遠)、NDフィルター併用
シャッター スピード	1/4秒~1/1500秒 (AUTO時)、8秒~1/1500秒 (全モードあわせて)、メカニカルシャッター併用
撮影可能範囲	標準：[広角] 約45cm~∞ / [望遠] 約80cm~∞ マクロ：[広角] 約5cm~80cm、[望遠] 約50cm~100cm
撮影感度	AUTO、ISO100/200/400/800/1600/3200/ 6400/12800 (ISO6400、ISO12800は最大記録画素数300万画素)
本体外形寸法	W 97.7mm×H 58.9mm×D 23.4mm (突起部含まず)
撮影時質量	約190g (付属バッテリー、メモリーカード含む)



写真の左より

FinePix F11

FinePix F31fd

FinePix F100fd

■ Maniac シリーズ

” WACHSEN BA-100 Agnriff Maniac”

<http://www.minami-nagareyama.org/editor/BA100maniac.html>

” FinePix F31fd Maniac”

<http://www.minami-nagareyama.org/editor/FXF31maniac.htm>

” FinePix F200EXR Maniac”

<http://www.minami-nagareyama.org/editor/FXF200maniac.html>

” FinePix F300EXR Maniac”

<http://www.minami-nagareyama.org/editor/FXF300maniac.html>

” HYBRID W-ZERO3 Maniac”

<http://www.minami-nagareyama.org/editor/HYBRID-W-ZERO3-maniac.html>

” Lavie Light BL350/CW Maniac”

<http://www.minami-nagareyama.org/editor/lavie350maniac.html>

“Papilio 6.5x21 Maniac”

<http://www.minami-nagareyama.org/editor/Papilio-maniac.html>

“Tripod Maniac - B 級（？）三脚選び -”

<http://www.minami-nagareyama.org/editor/tripod-maniac.html>

『FinePix F100fd Maniac』

2009年7月2日、改訂3版d（2011年10月17日）

著者：市川 誠 (maktich@pa2.so-net.ne.jp)

ロボット人間の散歩道：So-net ブログ

<http://robotic-person.blog.so-net.ne.jp/search/?keyword=f200exr>